

研修Ⅰ 「若い教師のための基礎・基本講座Ⅳ 国語科授業のフォースステップ」

「深く読み、学びあいたくなる国語の授業」 物語文編

～教材文『ごんぎつね』（東京書籍4下）を題材として～

1 物語の学習で付けたい力を付けるために教師がすべき4つのこと

— 特につながりのあることからや単元に着目して —

以下の(1), (2), (3), (4)をすることで、本単元で「子どもたちにどんな力をどのように付けたいか、そのためにどのような単元構成にするか・教師の支援が必要か」を決めることができる。

(1) 学習指導要領を読む

1 目標

(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

2 内容

C 読むこと (1)指導事項 ア, ウ, エ, オ, カ

(2)言語活動 ア, エ

(2) 教科書の構成を知る — 「ごんぎつね」を中心に —

- ① 単元の配列を横に見る … 4年で学習するそれぞれの物語文でどのような力を付けるか。
- ② 単元の配列を縦に見る … 学年を超えて単元をながめる。既習事項を活用しながら本単元ではどのような力を付けるか。
- ③ 本単元の位置付けをつかむ …①, ②をすることで見えてくる

3年 感想をつたえ合おう ①
教材文「サーカスのライオン」

中心となる人物の気持ちの変化を考えながら読み、感想を伝え合う。

4年 人物の変化をとらえよう ②
教材文「走れ」

中心となる人物の気持ちの変化とその理由を考えながら読む。

人物の気持ちの変化
を考える

本単元を支える読みの力

根拠に基づいて読む

4年 感想を伝え合おう 教材文「ごんぎつね」

中心となる人物とほかの人物とのかかわりについて考え、感想を伝え合う。
人物のつながりを考えながら読む

(3) 教材文を読み取る

(4) 子どもの実態をとらえる

① 国語科におけるこれまでの学びの実態

○物語文を読む力 … 教科書巻末〈「言葉の力」のまとめ〉参照

○学び合う力 … 考えをはっきり書く力、考えを伝え合い深め合う力、学びを整理して感想や意見を書く力

○日常の読書 … 読書習慣の定着、好まれる本の傾向

② 学級の実態

○学習習慣 … 学習用具の準備、ノートを書く、家庭学習

○学習の雰囲気 … 発表の習慣、話す・聞く態度、支持的風土の醸成 等

2 物語文の学習で付けたい・使えるようにしたい汎用的な力

(1) 構成を読む力 ○あらすじをとらえる力⇒「はじめはどうであった誰が、何によりどのように変わった話」と一文でまとめる。

○場面分けをする力 ⇒「時・場・人物」の言葉を使い各場面を一文でまとめる。

「時・場・人物」の変化を意識して見つける。

(2) 表現を読む力 … 人物の行動や情景を想像する力、人物の気持ちを読む力

着目点

- 情景描写
- 技法の効果
- 地の文と会話文・心内語
- 呼称表現の変化
- 行動描写の変化

五感を使って言葉をとらえ、
考えを広げることが大切！

人物の行動の根拠や気持ち
(見えにくいこと)を見える化
できる。

(3) 作品(丸ごと)を読む力 … 読后感想をもつ力、主題をとらえる力

⇒「作品世界全体から」、「一場面・一部分・一文から」『～な話』と考える
根拠となる人物の行動や気持ち、表現の着目点を大切にする。

3 物語文の教材研究 —まず、教師が教材や単元に惚れ込む—

(1) 作者を知る

【例】新美南吉：・作品の特徴
・生涯
・南吉の言葉 等

(2) 作品を知る

【例】・ごんは本当にいたの？
・兵十は本当にいたの？ 等について調べる。

(3) 教材研究ノートを作る

【例】・本文に書きこむ
・PCで作成する 等 自分にできる方法で。

[参考]

- 新美南吉記念館ホームページ
- 半田市教育委員会作成
ごんぎつねものしり図鑑

○音読しながら気付いたことを本文に書きこむ。

⇒ 子どもの学びについて考えられる。

【例】・子どもに着目させたい言葉や表現が見える。

・線や矢印、記号、色 等を使って書くことが板書につながる。

○同じ場面でのつながりを考える。

考える手がかり

- ・順序を表す言葉、時や場の移り変わりを表す言葉、登場人物の動きを表す言葉
- ・会話文、心内語
- ・表現技法

○前場面までとのつながりを考える。